




審査結果の要旨

報告番号	乙 第 3059 号	氏名	范 綾
審査担当者	主 査	太田 裕介	
	副主査	大川 孝浩	
	副主査	藤田 文彦	
主論文題目： Gross anatomical study of the subcutaneous structures that create the three-dimensional shape of the buttocks			

審査結果の要旨（意見）

本研究は、ヒト特有の臀部の形状がいかなる機序で形成されているのかという本質的問いに対し、皮下軟部組織内の Fascia の構築、またプリザーブ固定遺体を用いた皮膚の可動性を含めた詳細な解析によりその解明を試みている。例えばヒト特有な構造である臀溝の形成には坐骨結節-臀溝皮膚間に存在する脂肪や緩みの少ない靭帯様構造 (Ischio-Cutaneous Ligament) が関与することを明らかにしている。すなわち、直立することで加重のかかる大殿筋下縁をこの靭帯が下支えることでヒト特有の臀部形態の一部が形成されていることを初めて示唆している。これらの情報は外科的な臀部手術において、臀部形態の保存を検討する上で重要な情報を提供するとともに、基礎解剖学的・美術解剖学的にも貴重な情報を与えるものだと考えられる。また臨床展開に向けて、形態のバリエーションや経年的差異など、この領域の発展にはさらなる検討の必要性があることを提起する最初の報告であり、学位にふさわしい研究内容である。

論文要旨

殿部は人体の中で最も三次元的な形状を有する部位の一つであるが、その皮下構造物がどのように殿部の形状の形成に関わっているかは一般的に認識されていない。本研究の目的は殿部の形態に関わる皮下構造物を肉眼解剖学的に明らかにして、臨床応用することにある。

ホルマリン固定屍体 7 体 7 側から骨盤を含めた殿部組織を摘出した。摘出した組織を約 1.5cm 幅で水平断面および体の長軸に対して平行な断面（後面では矢状断で外側部では前頭断に移行する断面）を 5 側作成し、手術用顕微鏡下に皮下脂肪の除去を行い皮下脂肪内の線維構造の観察を行った。また、残りの 2 側では通常の手技による肉眼解剖による観察を行い、断面の所見との比較を行った。

上殿部では“浅筋膜”を認め、その浅層は蜂巢状の脂肪組織で、深層は比較的粒の大きい脂肪組織が存在していた。一方で、下殿部では浅筋膜は殿筋筋膜と一体となり、皮下脂肪全体が蜂巢状を有する浅層の脂肪組織で構成されていた。また、仙骨および尾骨上では、皮下脂肪が少なく、真皮、浅筋膜、骨膜がまとまった層となって強固に骨に癒着していた。腸骨稜では、骨膜および腸骨稜周辺の深筋膜から浅筋膜を貫いて真皮に至る線維が存在していた。また、大転子部でも腸脛靭帯から真皮に向かう線維を確認することができた。坐骨結節からは、大殿筋下端を通して殿溝直下の真皮に向かう強靱な線維が認められた。

肉眼解剖による殿部の皮下構造を明らかにすることで、筋や骨の形態以外にも殿部の形態を決定する因子が認められた。これらの所見は殿部の外科的治療において有益な知見となると考えられる。